

丸森町水防センター展示計画

**宮城県丸森町
令和7年3月**

1. 目的

本案件は、阿武隈川下流に整備される「丸森地区河川防災ステーション」において、町が整備する「（仮称）丸森町水防センター」の平常時における利活用として、令和元年東日本台風災害の記憶の伝承、防災学習等にかかる展示計画及び基本設計を行うものです。

「第五次丸森町総合計画」や「丸森町復旧・復興計画」をふまえ、下記の2つの目的を主たる軸に据え、展示の計画・設計をします。

安全で安心なまちづくりに貢献	・町の被害の歴史を学び伝える「災害記憶の伝承」 ・防災や減災を学ぶ「防災学習」
関係人口 交流人口の拡大	・町の魅力、遊び場等の発信

2. ターゲット

地域住民、小中学校の防災教育での利用だけでなく、野外アクティビティを目的に訪れたさまざまな観光客など、多様な人々を幅広く取り込み、関係・交流人口拡大につなげます。



3. 来館者に伝えたいこと

丸森町の個性や魅力と出会い、自然災害と正しく向き合う、新たな丸森（まち）づくりにつながる情報発信と交流の拠点を創出します

自然災害はゼロにすることはできなくても、被害を回避したり軽減することができます。その方法は、「災害を引き起こすかもしれない自然現象（ハザード）を知ること」と「正しく備えること」、災害発生時に「適切に対応すること」。むやみに怖がるのではなく、自然に親しみ、自然の知識を身につけることも、防災力向上に結びつきます。

本施設は、町内の観光施設への周遊につなげる拠点となり、観光客をはじめ、多様な人たちが来館します。多くの方に、丸森町の個性や魅力、そして正しい防災の学びを得ていただくため、阿武隈川をはじめとする“自然と人との関係”を伝えながら、新たな丸森（まち）づくりにつながる展示をめざします。

- 災害の歴史や文化
 - ・令和元年東日本台風災害のポイント
 - ・災害を体験した住民の声
- 地域の防災力の向上を図る防災教育
 - ・地域の災害の危険性
 - ・家庭で必要な備え
 - ・災害時に取るべき行動
- 地域の自然と人との関係
 - ・阿武隈川流域の自然、歴史や文化
 - ・アウトドアと防災
- 水防センターの役割・機能
- 丸森町の魅力・遊び場

4. 展示の基本計画・基本設計における4つの視点

1 命をつなぐ

地域の災害の危険性、命を守る行動をわかりやすく伝え、実践的な対応力を高めま

す。

2 記憶をつなぐ

丸森町の災害の記憶を風化させることなく、その教訓を次世代に伝えます。

3 まちへつなぐ

町内の観光拠点等と連携しながら、地域の魅力を発信し、町の周遊を促進します。

4 人をつなぐ

地域住民・観光客など、多様な人々が集い、交流できるしか

けをつくりま

命をつなぎ、記憶をつなぎ、まちをつなぎ、人をつなぎ。
全ては未来へとつながる取組みとして今をつないでいきます。

5. コンセプト

“もしも”は“いつも” 自然とともに生きる 丸森町

※「いつも防災のことばかり考える」のではなく、生活の中で自然に知識を得たり、当たり前のこととして取り組むことを目指すものです

阿武隈川をはじめとした自然とともに生きる丸森町。防災を「特別なこと（もしも）」として捉えるのではなく、「日常（いつも）」に取り組むことが自分や大切な人を守ることにつながります。私たちは、丸森町の自然と人との関係を知り親しんでいただくことを大切にしながら、その上で、命を守るために必要ないつもの備えをわかりやすく伝えることにより、本展示を災害時にのみ役立つ特別なものにするのではなく、人々の「生きる力」と「生き抜く力」を高め、行動に結びつけられる展示にしたいと考えます。そして、ふだんの丸森町のいきいきとした賑わいが、災害時の助け合いにつながる、そうした展示をめざします。

6. 展示における基本方針

新たな丸森づくりに向けた歩みに寄り添い、この地の魅力と記憶を
広く伝え、人々の「生きる力」「生き抜く力」、そして行動へつなげます

1. 人々の「生きる力」と「生き抜く力」を高め、 行動に結びつけられる展示

命を守る行動を紐解くだけでなく、自然への畏怖と畏敬を正しく理解でき、人々の豊かな生き方に貢献する展示を行う。

2. 丸森町の自然、災害の記憶・記録から得られる 学びを継承していく展示

丸森町の過去の経験から教訓を見出し、未来へ活かせるよう、災害の記憶と記録を展示化し、後世へ継承していく。

3. 地域の施設や情報等の交流拠点となり、 防災施設や魅力を発信して周遊を促す展示

町民、観光の方々が立ち寄るゲートウェイとして、丸森町の防災施設、魅力や遊び場を紹介し、周遊を促す展示を行う。

4. 町民・地域が参加しやすいしくみを持ち、 活動成果などにより発展していく展示

多様な人々が集い、協働する場と仕掛けをつくり、その活動の展開に応じて、展示内容を発展させる。

7. 展示ストーリー

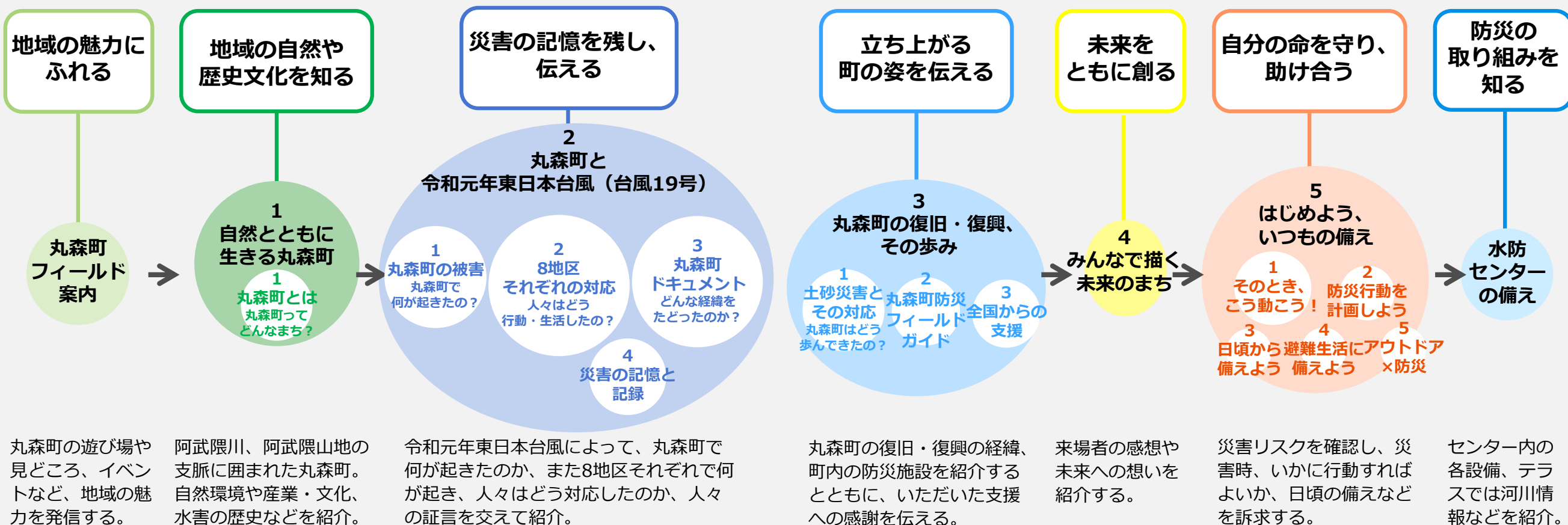
ストーリー性をもった展示を展開するとともに
水防センターならではの、施設全体で学びを得られる展示とします

1F
エントランスホール等

2F
展示室

教室

水防センター
各所



2F教室

ガイダンス等

1 防災関連映像

2 防災ライブラリー

学校団体等にも対応できるガイダンス空間。また、深く知りたい方に向けて、ライブラリー機能も有する。

※上記、常設展示のほか、企画展示に使用できる空間を設けるものとする。

2F フリースペース等



テーマ展示

子どもたちによる展示の他、地域の自然や歴史文化、防災等に関連する多様なテーマの企画展示。国交省に関する展示なども。

8. イメージパース

2 丸森町と

令和元年東日本台風（台風19号）

令和元年東日本台風災害について、丸森町、その各地区では何が起きたのか、人々はどう行動したのかなどを、写真や証言を中心に明らかにする。また、なぜ大災害となったのか、その経緯を映像でわかりやすく伝える。**その時の人々の行動や思いを知り、教訓を得られる展示**とする。

通常時／被災時
8地区バナー

各地区の
被災状況を伝える
8地区テーブル

丸森シアター
壁面PJ投影

丸森町全域マップ
(衛星写真等)

丸森町の自然
イメージバナー

3 丸森町の復旧・復興、
その歩み

丸森町の復旧と復興まちづくりの歩み、整備された防災施設等を紹介し、**町の安全・安心を感じていただくとともに、全国からいただいた支援への感謝を伝える展示**とする。

5 はじめよう、
いつもの備え

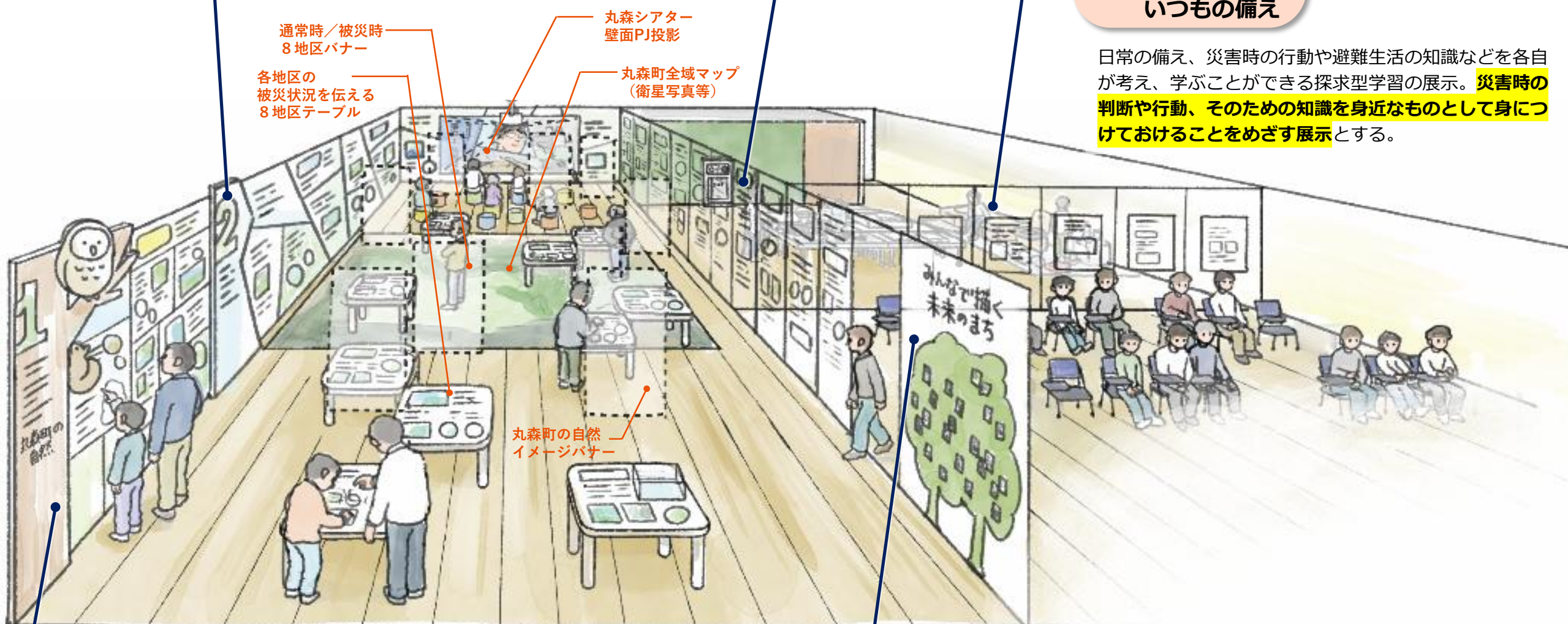
日常の備え、災害時の行動や避難生活の知識などを各自が考え、学ぶことができる探求型学習の展示。**災害時の判断や行動、そのための知識を身近なものとして身につけておけることをめざす展示**とする。

1 自然とともに
生きる丸森町

丸森町の自然がもたらす豊かな恵み。しかし、町は歴史的に度重なる自然災害の被害に遭ってきた。それでも丸森町は、自然とともに生きることを訴求し、**自然と人との関係への興味や問題意識をもつきっかけとなる展示**とする。

4 みんなで描く
未来のまち

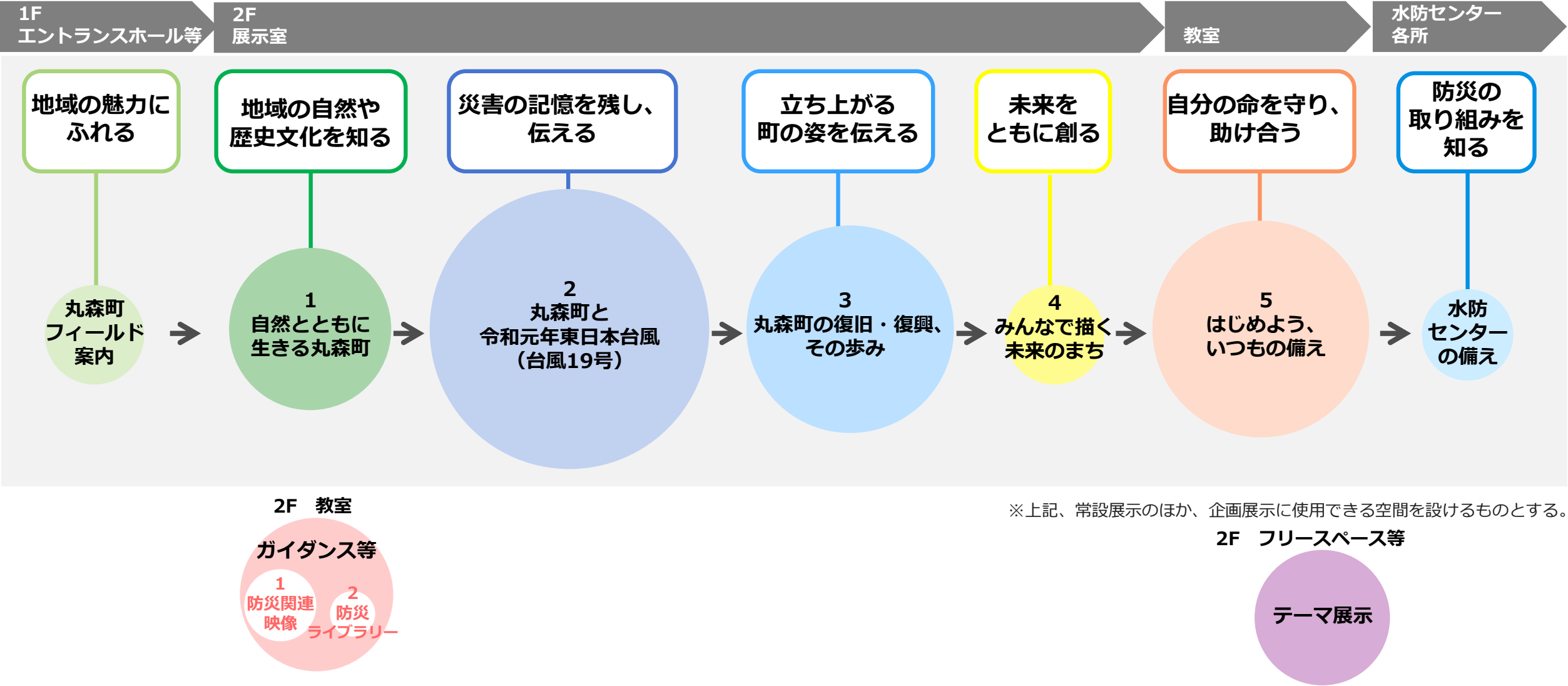
来場者の展示を見た感想や未来へのメッセージなどを紹介。**人々が描くまちの未来、未来への想いを伝え、共感・共創いただける展示**とする。



展示設計の基本的な考え方

■展示ストーリーについて

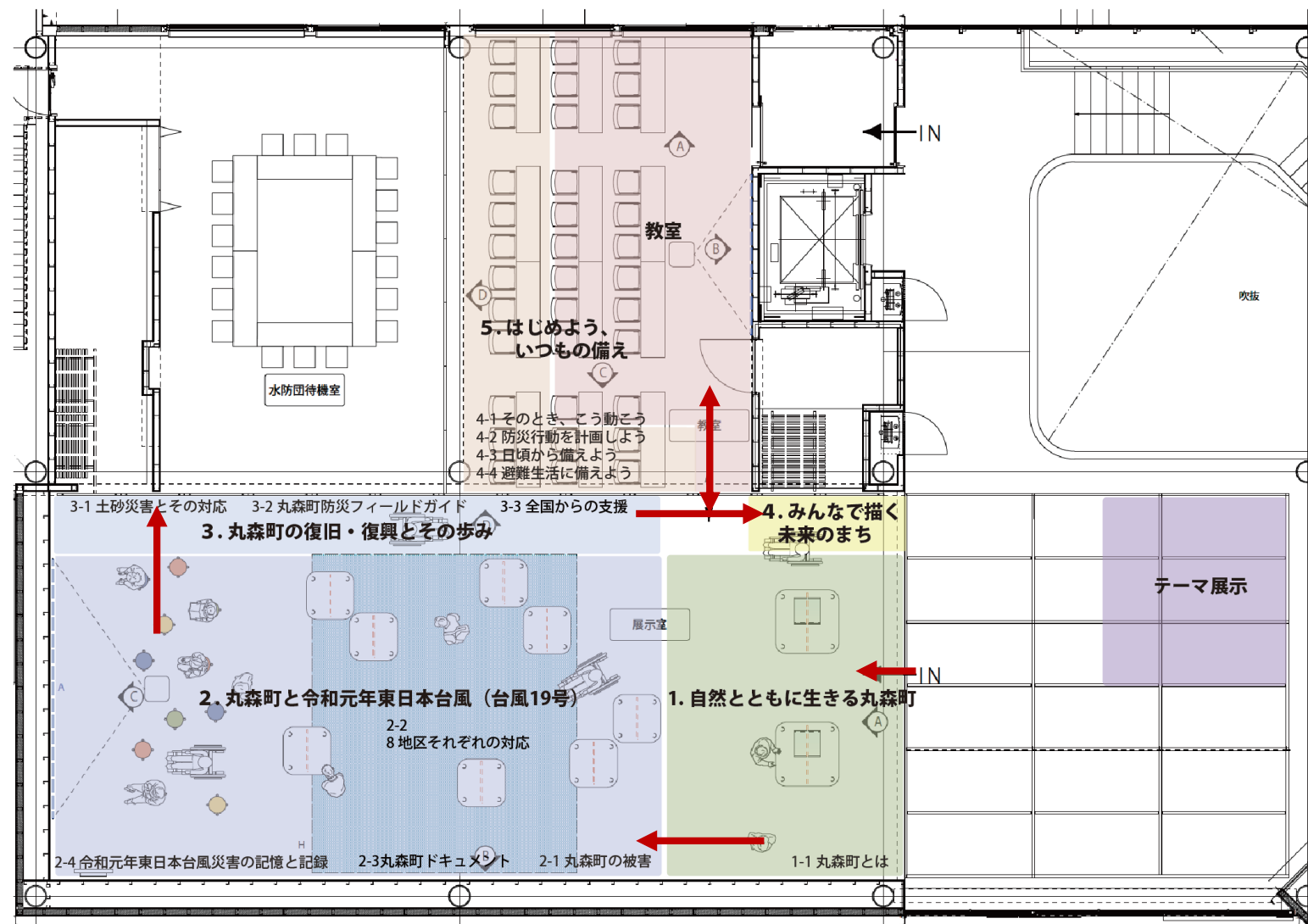
- ストーリー性をもった展示を展開するとともに水防センターならではの、**施設全体で学びを得られる展示**とします。
- 丸森町の魅力と記憶を広く伝え、**人々の「生きる力」「生き抜く力」、そしてそのための行動へつなげるための展示**をめざします。
- エントランスホール等で、**丸森町の価値ある資源や魅力を発信し、丸森町の周遊を促す**ほか、多様な人々の交流を生み出します。
- **丸森町の自然や歴史文化、災害の記憶・記録から得られる学びを活かせるよう、関心をもっといただけるよう工夫し、わかりやすく伝える展示**とします。
- 災害への備えや災害時の行動について、**来館者の主体的な学びにつながるよう、考えるきっかけや体験を通じて学べる展示**をめざします。（探求的学習等）
- 展示室においても、**丸森町の自然や防災関連施設の紹介など、関連する町内の各所との連携をはかり、フィールドでの学び**へつなげます。
- 多様な人々が集い、協働する場としかけをつくり、その**活動の展開に応じて展示内容を発展させる**ことをめざします。
- ポンプ車車庫や備蓄庫等の各設備を紹介するほか、テラスで地形や河川の情報を提供するなど、**施設全体で防災につながる学び**を得られるものとしします。



展示設計の基本的な考え方

■ゾーニングと動線について

- **有事には災害対策本部となることを前提とし、可動性を有する展示**とします。また、プロジェクター等の映像機器についても、災害対策本部における利用を考慮した機能および配置とします。
- **展示室を常設的な展示としてメインに使用するほか、教室やフリースペースを活用**し、来館者の多様なニーズに対応します。
- **時計回りの動線を基本とし、まずは自然とともに生きる丸森町を知り、自然災害への学びへとつなげます**（自由動線も可能）。それぞれのテーマを一連の流れで体験することで、防災への理解を深め、命を守る行動へつながるような配置とします。
- 入口となる「1. 自然とともに生きる丸森町」は、2階に上がってきた来館者を展示室内へ誘う役割をもたせます。
- 「2. 丸森町と令和東日本台風（台風19号）」は、壁面を丸森町全体のドキュメントを時間軸で伝える構成とし、**正面奥の壁面を大型シアターとし、座って鑑賞できる空間を確保**します。また、8地区を伝える展示は空間軸も意識し、展示室中央部に配置し、**床には大型の丸森町全域のマップ**を展開します。
- 「4. みんなで描く未来のまち」は、来館者が最後に参加や鑑賞できる位置に設定します。
- 「5. はじめよう、いつもの備え」は、主体的な学びにつながる探求的な学習をめざし、独立した使用が可能な教室を使用した展開とします。



展示設計の基本的な考え方

■基本デザインについて

- 展示室には、天吊りバナーを設置し、丸森町の自然や丸森町の8地区のイメージグラフィックを展開し、自然とともに豊かな歴史文化を育んできた丸森町のイメージを創出します。※バナーは、正面奥の丸森シアターとのクッションとなる役割も果たし、被害映像を観たくない方への配慮を考慮します。
- 「2. 丸森町と令和東日本台風（台風19号）」は、壁面を丸森町全体のドキュメントを時間軸で伝える構成とし、正面奥の壁面には220インチの大型シアター「丸森シアター」を設置し、ダイナミックで臨場感のある映像を展開します。本テーマにおいては、体験者の証言などを積極的に展示に取り入れます。
- 「丸森シアター」の映像は、令和元年東日本台風による丸森町の被災状況やその経緯をひもとく臨場感のあるドキュメンタリー映像とし、自然がもたらす恵みと脅威を伝え、体験者の声から、命を守るための「行動」や「備え」への気づきを与えるものとしします。
- 展示室の中央部には、丸森町全域を示す大型のマップを設置し、令和元年東日本台風による被害（土砂崩れや決壊箇所、破堤状況等）の情報などを伝えます。また、マップとリンクするように8地区それぞれのテーブル型什器を配置し、災害対応を紹介します。その什器の上部から下がる「8地区バナー」は、表面を通常時の各地区のすがた、裏面を令和元年東日本台風災害時のすがたを表現し、自然の恵みと脅威は表裏一体であること伝えます。
- 「4. みんなで描く未来のまち」は、来館者が参加できるコンテンツを検討し、「5. はじめよう、いつもの備え」は、主体的な学びにつながる探求的な学習をめざして展示内容を検討します。
- 「この災害のこと…決して忘れない」等の既存パネル類については、運営を考慮しながら活用します。
- テーブル什器やシアターの椅子は可動可能、スタッキングができる仕様とします。

